

総合診療科の開設について

越谷病院では 2016 年 4 月に総合診療科を開設、同 6 月 1 日より診療を開始いたしました。

○診療内容

総合診療科は**健康にかかわるいろいろな問題について適切な初期対応を行う部門**になります。いろいろな症状のある患者さまを全体として拝見し、**どのような問題があるかを探ります**。その結果、治療を要する問題が明らかでない際は**不安の軽減につとめる医療**を心がけていきます。

どこで診療を受けるのがよいのかははっきりしない場合、**地域の医療機関から当科にご紹介**を頂きます。私どもで初期診療を行い、患者さまのご希望も配慮した上で、専門診療科への橋渡しを行います。当科対応で解決できる場合から各科との連携による診療まで幅広く対応します。

主に次のような場合の診療を中心に行っている部門になります。

- ・かかりつけの医療機関でなかなか診断がつきにくい場合
- ・症状が複雑でどこの専門科の診療がよいか特定できない場合
- ・複数の病気を抱え、単独の診療科だけでは診療の方向づけが難しい場合



○特色

総合診療科は、はっきりと診断がついていない患者さまに対して、臓器の枠にとらわれず横断的にアプローチして、幅広く診療を進めることを特色としています。症状のある臓器だけを治療しても本来の問題は解決しないことがあり、**身体と心、社会的背景などを総合的に診療**することが必要となります。

診療の結果、各専門診療科と連携して対応を進めます。総合診療科は外来部門としてスタートのため、入院加療を必要とする場合には、主な問題に対応する診療科や医療機関への橋渡しを行います。

さらに地域全体での包括医療のなかに存在する大学病院としての役割に従って、患者さまの問題解決に地域の医療機関での診療が望ましいと判断された場合などは、逆紹介という形で地域連携による医療を進めてゆきますので、ご理解をお願いいたします。



これまでの診療経験から、西洋医学によるアプローチだけでなく東洋医学的アプローチ（漢方）を併施することにより症状が改善すること、身体と心のケアとの両立が大切になる場合がありますので、患者さまの状態に合わせより良い診療をめざします。

ていねいな医療を心がけ、患者さまの人生におけるさまざまな場面で診療ならびに相談に応じ、お役に立てるよう努力いたします。

獨協医科大学公開講座のお知らせ

今年度も公開講座を開催することとなり、越谷病院で開催される講座は以下のとおりとなります。

平成3年よりスタートした公開講座は今年で25年目を迎えることができました。地域の皆様にご満足いただけるよう充実した講座にしたいと考えておりますので、皆さま是非お誘いあわせの上、多数ご参加ください。

メインテーマ「治療医療の最前線 越谷病院の新たな挑戦」

日程・講師名

①日 時：10月1日（土）14：00～15：30

テーマ：身近な男性不妊症

講 師：リプロダクションセンター センター長 岡 田 弘

②日 時：10月8日（土）14：00～15：30

テーマ：出生前診断やガンと遺伝よもやま話

講 師：遺伝カウンセリングセンター 学内助教 城 戸 康 宏

③日 時：10月22日（土）14：00～15：30

テーマ：がん治療戦略の進歩と腫瘍センターの果たす役割

講 師：腫瘍センター センター長 森 田 公 夫

1. 会場：獨協医科大学越谷病院 高架下会議室
2. 受講定員：80名（申込順）
3. 申込期間：9月9日（金）～（土日祝日除く）
※午前9時～午後4時30分にテキスト代1,500円（全3回分）を添えて庶務課まで
4. 問合せ先：事務部庶務課

TEL 048-965-9137



病院への手紙にお答えいたします

～当院の各部署に設置してあります、ご意見箱に寄せられる
患者さまのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

* 入院環境について

〈入院患者 79 歳 男性〉

入浴時刻がいつなのかわからなく、身動きが取れないので改善をしてほしい。また、本来閉めておくべき病室の窓を開ける人がいても看護師が注意しない。

お答えいたします

入浴の件についてご不便をおかけして申し訳ございません。現状では隔日で男女の入浴日を設定しておりノートに病室毎に対象者を明記し順番で入浴していただいております。事前におおよその時間をお伝えできるよう対応していきます。病室の窓は必要時以外は閉めておくようにスタッフに周知、指導しました。

* 給食について

〈72 歳 男性〉

ご飯のときにでる漬物が非常に硬くて食べづらい。また、食事にあった付け合わせを提供してほしい。

お答えいたします

ご不便をおかけして申し訳ございませんでした。漬物について、食べづらい方にはご希望により刻んで提供することもできます。付け合わせもさまざまなものがあるのでぜひお試しください。

* 病棟来客のマナーについて

〈入院患者 70代 女性〉

病室では静かに体を休めたいので、来客はダイルームを使用し、やむを得ず病室で会う場合は声を落として静かにお願いしたい。

お答えいたします

入院時にご家族の面会に際してのご説明は紙面にてさせていただいていますが、ご指摘いただいたような場面において看護師の配慮が不十分であったことに対し、大変申し訳なく思っております。随時面会の方々にはお声かけ、安心して入院できるよう笑顔での対応を努めていきたいと思っております。

* 携帯電話・スマートフォン（タブレット端末）のマナーについて

〈69歳 女性 他数名〉

携帯電話やスマートフォンを使用している人が大勢いるにもかかわらず、職員が注意をしない。

お答えいたします

通話は施用エリアを限定、パケット通信等は重篤な患者様がいらっしゃるエリアを除き、通常患者様が立ち入るエリアでは使用が可能となっております。今後ルールが守れない患者様には職員から声掛けできるように指導したいと思っております。

病院への手紙について

患者様から寄せられる「病院への手紙」につきまして、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通したうえで、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

また、月1回開催している医療サービス委員会において改善案の計画・立案を行っておりその中で改善できるものは早急に改善し、検討を要するものは少しでも患者様のご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性格上そのほとんどが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することは出来ませんが、皆さまからのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆さまからのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思っております。

青葉まつり（熊本地震復興支援イベント）報告

去る、6月10日・11日の2日間に亘り、熊本地震復興支援を目的とし「青葉まつり」を開催いたしました。両日とも晴天に恵まれ、多くの方々にご参加いただき盛況のうちに終了いたしました。

なお、熊本地震チャリティーイベントとし、例年同様に収益の全てを義援金として寄付させていただきこととなり、同時に参加者から義援金の募集も行ったところ以下のとおりとなりました。

◇義援金	6,930 円
◇青葉祭り収益	51,252 円
合計	58,182 円

皆様からお預かりした義援金並びに収益（58,182 円）につきましては、日本赤十字社を通じて寄付させていただきました。

改めまして、皆様のご協力・善意に心より感謝申し上げます。

越谷病院庶務課

当院における夏季省エネルギー推進運動の実施について

当院では、政府が推進する「地球温暖化防止及び省エネルギー」の実施に加え、震災以降の節電に伴い、院内の設定温度を 28 度としております。

また、教職員においては、5月1日からクールビズ（服装の軽装化）などを実施しています。

ご来院いただく皆様にはご理解の程よろしくお願いいたします。

エコキャップ回収活動報告

当院では社会福祉及び環境保全に貢献することを目的として、平成 24 年 9 月から、院内で消費されたペットボトルのキャップを NPO 法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」を通じて分別・回収し、そのリサイクルによる売却益の中から発展途上国へワクチンや医療物資等を送る「エコキャップ回収活動」を開始しておりますが、直近のご報告として平成 28 年 2 月～平成 28 年 4 月分の回収状況及びワクチンへの換算は下記のとおりとなりましたのでご報告致します。

《平成 28 年 2 月～平成 28 年 4 月》

重量 56.60 k g 個数 24,338 個 ポリオワクチン（小児麻痺） 28.3 人分

キャップの回収BOXについては、中央棟 1 階売店前など計 2 箇所の自動販売機脇に設置し、教職員並びに患者様等、来院者の方々に協力を呼び掛けております。

私たちでも困っている人たちのために出来ることがあるという思いで、より多くのキャップを集めていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご協力を宜しく申し上げます。

越谷病院庶務課

第32回南越谷阿波踊り

踊りは 獨協さ！

獨医連 連長 鈴木 伸志

越谷市の夏の風物詩として定着した「南越谷阿波踊り」が8月20、21日の両日に開催され、当院の医師や看護師をはじめとする教職員が「獨医連」として参加しました。

毎年8月のお祭りが近づいてくると天気が心配になります。「南越谷阿波踊り」も30年を超える歴史がありますが、今まで雨で中止になったことが一度もありません。今年は開催週に台風が一気に



3つ発生し本祭当日の天気が危ぶまれましたが、阿波踊りが始まる頃には晴れ間が見え、連員一同の気持ち雨が吹き飛ばしたようでした。

獨医連の存在の意義は、数少ない職員の親睦の場を提供し、練習を共にすることで「和」が生まれ、その延長上における業務の円滑化も期待しています。年々連員の数も増加を続け様々な職種の方が参加しているので本当に良い親睦の場になっていると実感しています。

また獨医連には他の連には味わえない感動があります。それは、病院の患者さまに自分たちの踊りや鳴り物を披露出来るからです。私個人としては南越谷の踊り会場で踊るよりも、病院の患者さまの前で踊れることの方がうれしくもあり、誇りでもあります。いつも接している患者さまに自分たちの踊りや鳴り物を披露し、少しでも元気や勇気を与えられたらと思っています。



最後になりましたが、毎年患者さまや面会の方などからたくさん励ましのお言葉をいただいております。本当にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さあ、来年へ向けてまだまだ獨医連行きますよ～「やっとさー、やっと、やっと！」